

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 青葉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

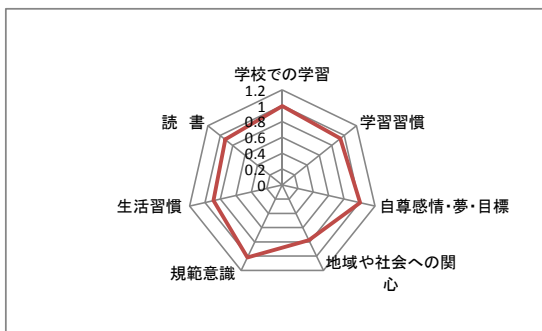
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率と同程度である。言語知識理解は、よく理解しているものとそうでないものの差がはっきりとしている。 ・読む力を問う問題に課題があり、文章の内容や問題文を理解しながら読む習慣をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	・漢字を正しく書く問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題については、やや正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っている。記述式の問題はよくできたもの、そうでないものの両方がある。文章を読んで理解し、理由を示しながら自分の考えを書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的や意図に応じ、て話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	・物語を読み、具体的な記述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題の無答率が高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を7ポイント弱上回っている。 ・数量についての技能(計算)の正答率が高い。また、図形の知識・理解についても正答率が高い。計算力が高い傾向がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・数量における計算問題の正答率が非常に高い。	
	努力が必要な問題	・重さや長さの任意単位による測定についての理解は全国平均正答率をやや下回っていた。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや上回っている。 ・数量関係における数学的な考え方の問題についての正答率がやや低い傾向がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、記述する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○学習習慣、学校での学習及び読書</p> <p>・「自分で計画を立てて勉強をする」においては、昨年度と同程度の数値で、全国平均値を下回っている。また、「月～金1日当たりの平均勉強時間が1時間以上」は昨年度よりやや数値が低い傾向にあり、全国平均値と比べても数値が低い。</p> <p>・「自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と考える子どもが多い傾向がある。</p> <p>・「読書が好き」の項目のポイントは全国平均値より6ポイント低い。</p> <p>○生活習慣、地域や社会への関心</p> <p>・「1日当たりのゲーム時間」が多い傾向にある。</p> <p>・「住んでいる地域の行事への参加」の項目のポイントは20ポイント以上低い。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上に関する職員会議の定期的な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・正答率が低かった学力テストの問題を解き、具体的な指導方法を話し合う。(全職員) ○ 補充学習の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・週2回の「補充時間」を月、木曜日に全学級で実施する。3～6年生は主に「学力定着サポートシステム」を活用する。(学級担任) ・週2回の「放課後ひまわり学習塾」を月、木曜日の放課後に実施する。(ひまわり学習塾指導員・職員)

- 基礎的・基本的な内容の定着を図る朝自習(8:35~8:45)
 - ・計算タイム・国語タイムの内容を見直し、確実に実施する。(担任外教員・学年)
 - ・過去問題、ドリルプリントなどを効果的に活用していく。(学年)
 - ・国語科・算数科の基礎的・基本的な指導事項(内容)まとめたプリント集を作成し、周知徹底する。(教務主任・学年)
- 音読暗唱ブック「ひまわり」の活用
 - ・校内「暗唱発表会」を年2回実施し、子どもの意欲を高めると共に国語(古典)への興味をもたせる。(全職員)
 - ・校内「自学ノートコンテスト」を每学期実施し、主体的に学んでいく力を育てる。(教務主任・全職員)
- 国語の「読む力」を高める取組
 - ・図書室の利用者や読書冊数を増やすために「読書週間」を位置付け、読書に対する啓発を図る。(図書委員会担当職員、図書館司書教諭、図書館職員、教務主任)
 - ・国語や道徳の時間など、文章を読み、課題に応じて自分の考えを書く授業を充実させる。(学級担任・教務主任)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・全学年で、自主学習を推進する。「自学ノートコンクール」を企画し、実施する。(全校)
 - ・全学年に「家庭学習の約束(1年生~6年生)」を配布し、保護者の家庭学習に対する意識を高める。(全校)
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック(ダイジェスト版)」を大いに活用する。(学年)
 - ・毎日、漢字・計算等の宿題を必ず出すことで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。(学年)
- 長期休業期間中の宿題量の学校統一
 - ・夏休みは、B4両面30枚(表:国語、裏:算数)、B4両面10枚(他教科)以上。(全校)
 - ・冬、春休みは、B4両面10枚(表:国語、裏:算数)、B4両面3枚(他教科)以上。(全校)
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り、学校HP、学年・学級通信等で、児童の学習状況等を発信する。(校長・教頭・教務主任・各担任)
 - ・読書を推奨するための子ども・保護者への告知を手紙等で行う。